

小学校中学年の部・胡堂賞

私が受け取ったメッセージ

上平沢小学校 四年 齋藤 莉央

はじめは、とてもダメなことだ。それがこの本を読んで、最も強く心に残ったことです。

「はじめ14歳のメッセージ」という本は、本当に14歳だった林慧樹さんという人が書いたお話です。自分が体験したことをもとに書いたそうです。主人公は、中学二年生の慧佳さんです。慧佳さんは、はじめられている千夏さんを勇気を出して助けようと思いました。ところが、今度は、そのことがきっかけとなって、慧佳さんがいじめられるようになってしまいました。それは、ぼう力をふるわれたり、言葉のぼう力を受けたりする本当にひどいものでした。そして、そんな慧佳さんをだれも助けてはくれませんでした。きっとクラスの人たちは、助きたいけど、次自分がいじめられたらいやだと思っていたと思います。もし私がそこにいたとしても、きっとそう思ったと思います。だっていじめられるのは本当にこわいです。でも、そのままだとクラスは悪い方向に向かっていくので、勇気を出して、「いじめはやめようよ」とだれか一人でも言えないとだめだと思います。

私も、三年生の時にいじめられました。ぼう力ではなかったけど、コソコソ話をされたり、仲間はずれにされたりしました。私は、三年生になってから転校してきたので、仲間はずれになった時は、自分のい場所がどこにもないような気持ちになりました。私も慧佳さんみたいに、プールの着がえの時などの、先生が見ていない所でいじめられました。時にはなみだをこらえる日もありました。慧佳さんと同じように「自分はいない方がいいんだな」と思ったこともありました。本当に本当につらかったです。

この本にこめられたメッセージは「もし、自分がだれかをいじめている
と思ったら今すぐやめよう」ということと「もし、自分がいじめられても、死んだらだめだよ。だれかに相談しなければいけないよ」ということだと思います。

私は、自分がいじめられた時にお母さんに相談することができました。はじめは心配かけたかと思うと言えませんでした。でも、どうしてもがまんができなくて伝えました。お母さんは、

「だいじょうぶだよ。」

と言っすぐ先生に伝えてくれました。その後、すぐいじめられなくなりました。今思うと、あの時お母さんに伝えて本当に良かったです。私をいじめた人もいたけど、私に、「だいじょうぶだよ。気にしないで。」と言ってくれた人もいました。今思い出すとあの時言ってくれた人にありがとうと言いたいです。

この本を読んで、もしいじめに気がついたら時は、勇気を出して「いじめはやめてく

「ださい」と言いたいと思うようになりました。お母さんやあの時の友達のように「だ
いじょうぶ」と言える人に私になりたいです。